



## 千秀魂

校長 富田 操

「負けちゃったけど、良い運動会だったな。」

ある学級の子が、運動会が終わって帰る支度を終えて、ぼつりと、そう言ったそうです。担任の先生が、それは愛おしそうに、その子がこう言ったんだと、教えてくれました。

運動会のことを私が様々な言葉で書き表そうとしても、子どものこうした言葉には勝てません。子どもの心の底から、出ている言葉だからです。あの日、こんな風に思ってくれた子どもたちが何人いてくれたのだろう・・・たくさんいてくれたら良いな。私の書けることと言えばその程度のことです。

運動会の前日、低・中・高の各ブロックが、校庭で演技の最後の総仕上げといった練習をそれぞれ行っていました。ふと目を移すと、他学年の子どもたちが、校庭のスタンドに座って、その演技にじっと見入っている姿が見えました。そして、その子たちは、見終わった後、演技を行った子どもたちに大きな拍手をおくっているのです。

なんて素敵なお光景だろう、と思いながら見ていました。近くにいた先生に「いつも運動会前日は、このようにやると決まっているんですか。」と聞くと「いいえ、これは決めているわけではなくて、毎年自然発生的に起きるんです。」とその先生は答えました。

私は、これこそ「千秀小の文化」・・・「千秀魂」なのだ、と思いました。

運動会当日の演技を見るのも、もちろんすばらしい体験ですが、こんな子どもたちの姿を見る体験ができるのは、子どもたちと私たち教師だけです。こういうことは、教師という仕事について「ご褒美」のようなものだなあ・・・とつくづく思います。

まさに、子どもたちのつくった運動会スローガン『協力の絆で、優勝めざせ、千秀魂』を目の当たりにした感がありました。ブロックで行う演技やそれを見ることで、運動会の取り組み全体を通して、「絆」はすでに深まっていたのです。

また、この「絆」はもちろん運動会の取り組みだけで、できたわけではありません。その前々週に行われた全校遠足の時から脈々と積み上げられてきたものだと思います。

上級生が下級生の様子を心配そうに見つめ、さりげなくサポートする姿。

下級生が上級生の顔を見上げる信頼に満ちた表情。

このような姿を、全校遠足のそこそこで見ることができました。こうして、子どもたち同士の「絆」は、遠足の時から、いや、もっと言えば、昨年度以前から脈々と積み上げられてきたのでしょう。

千秀小学校の、今まで、そして今年度、積み上げてきた「文化」「絆」を、これからも大切に育ててまいります。そして、それは保護者の皆様、地域の皆様から暖かく見守ってきていただいたご支援の上に積み上がってきたものなのだと思います。これからもご支援、ご協力をお願いいたします。